

# 令和6年産 大島地域無加温施設パッションフルーツ栽培暦

令和6年1月作成

月	旬	生育相	主要管理	栽培管理上の注意	温度管理
9	上 中 下		土づくり	<input type="checkbox"/> 土壌診断結果に基づいて土壌pHが5.5~6.0になるように調整しましょう <input type="checkbox"/> 良質たい肥を2t/10a施用する	日中は30℃を超えないよう換気、夜間は冷気が入り込まないように閉め込む  ハウス内の換気を徹底し、湿度の管理に注意する  気温の上昇に十分注意する
10	上 中 下		ビニル被覆 定植・施肥  誘引 腋芽かき	<input type="checkbox"/> 株間は1~2mとし、主幹形に整枝する <input type="checkbox"/> 植え付け遅れは、開花期の遅れや着花(果)量の減少につながるの、できるだけ早めに定植する <input type="checkbox"/> 主枝は、棚上部に達するまで1本に伸ばす <input type="checkbox"/> 定植時にかん水した後、かん水は控える <input type="checkbox"/> 側枝は順次左右に伸ばしていき、主枝は隣接株に達したら摘心する	
11	上 中 下		施肥	<input type="checkbox"/> 側枝は地面から20~30cmで摘心し、側枝から発生する脇芽は早めにかく <input type="checkbox"/> ハウス内温度に注意し、特に温度上昇しやすい晴天日は、谷・サイドビニルを開放する <input type="checkbox"/> 天敵製剤を利用してハダニ類の密度抑制を図る場合は、『奄美版亜熱帯果樹天敵利用マニュアル』を参照する	
12	上 中 下		せん定 (側枝切り返し)	<input type="checkbox"/> 2月上旬以降に、側枝を2~3節で切り返す <input type="checkbox"/> せん定後は、結果枝を10~15cm間隔で配置し、発芽伸長を促すために、かん水をしっかり行う <input type="checkbox"/> 結果枝は地面から20~30cmで摘心する <input type="checkbox"/> 花芽発達適温である20~25℃の温度帯にできるだけ遭遇するように温度管理に努める <input type="checkbox"/> 受粉にクロマルハナバチを利用する場合は、使用基準を守り、適正に使用する <input type="checkbox"/> 着果は結果枝1本当たり5~6果程度とする(最終節まで受粉はせず、小玉果は必ず摘果する) <input type="checkbox"/> 開花期のかん水量が多いと、病気の発生を助長するため注意する <input type="checkbox"/> 果実は成熟すると、自然落果するため、クリップ止めや衝撃防止ネットによる落果防止対策を行う <input type="checkbox"/> 早期落果対策として、高温に注意し、ハウス内をなるべく外気温に近づけるよう換気を徹底する <input type="checkbox"/> 樹の衰弱やしなび果等が発生しないように、果実成熟期から収穫終了まで適切な水管理に努める <input type="checkbox"/> 収穫した果実は出荷まで涼しい場所に保管する <input type="checkbox"/> 果梗部にしなび防止シールを貼る	
1	上 中 下		施肥	<input type="checkbox"/> 収穫と並行しながら、過繁茂の枝を間引いて整理し、果実への日照を遮らないようにする。 <input type="checkbox"/> 土壌診断を行う。	
2	上 中 下		受粉 花殻除去	<input type="checkbox"/> 収穫が終了したら直ちに伐採し、次作に備える <input type="checkbox"/> すき込み用緑肥として、ソルゴーを播種する	
3	上 中 下		収穫 調製		
4	上 中 下		伐採処理・ビニル除去 ほ場整理・次作準備 土づくり		

農薬使用基準を遵守して 安心・安全な果実生産に努めよう！

## 〔パッションフルーツに登録のある農薬〕

対象病害虫	薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
円斑病・疫病	アミスター10フロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内
	ダコニール1000	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内
疫病	アリエティ水和剤	800倍	収穫7日前まで	3回以内
カイガラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫30日前まで	2回以内
カイガラムシ類幼虫	アプロートフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内
アザミウマ類	アトマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	収穫7日前まで	2回以内
ハダニ類	クミアイアタックオイル	100倍	収穫後~開花期	制限なし
	アカリタッチ乳剤	1000倍	収穫前日まで	制限なし

(令和5年11月28日現在の登録内容を記載)

## 〔施肥時期と施用量〕 (2t/10a)

施肥時期	肥料の種類	施肥量 (N量)	年間施肥割合
定植時	奄美果樹配合 または のめぐみ2号	75kg (6.0kg)	30%
12月	奄美果樹配合 または 蜜のめぐみ2号	100kg (8.0kg)	40%
受粉終期	あまみオール14	42kg (5.9kg)	30%

## 〔耕種的防除による病害虫発生軽減対策〕

●立枯病	>>> 苗は高植して地際部を露出させた上で、株元を濡らさないように心がける。
●疫病	>>> ハウス外からの雨水の浸入を防ぐ。かん水が果実にかからないように心がける。
●アザミウマ類	>>> ハウス内外の除草を行う。受粉後、速やかに花殻を除去する。

鹿児島県園芸振興協議会大島支部

【連絡先】 大島支庁農林水産部農政普及課 0997-57-7274  
(同) 瀬戸内町駐在 72-0184 (同) 喜界町駐在 65-3019